

I 次の文章を読んで、後の問い(問1～13)に答えよ。(配点 75)

大学生になってからも、理数系科目における女子学生の意欲や学力は環境からの影響を受けます。特に、ロールモデルの影響は大きいといわれます。二〇一一年に行われたある実験では、生物、化学、工学分野を専攻する女子学生を二群に分け、一方は男性の教師、他方のグループには女性の教師による講習を受けさせました。講習の内容は彼女たちがまだ習っていない高度な数学でした。その結果、女性教師が担当したグループにおいて、女子学生の積極性と、理系科目への I、そして成果がユウイ^aに向上したそうです。女性教師をみると「自分にもできそうだ」と感じた人が多かったということでしょう。このようなロールモデルの効果は親や姉妹、知人などでも起りえます。

ただし、進路選択の際には、もちろん男女それぞれの積極的な興味関心も影響しています。心理的な傾向として、女性は理工系に進学するとしても、人や生物指向の分野に興味を感じ、医学、畜産学、生物学などを志向する傾向が強いといわれます。

対して、同程度の数学や科学の能力傾向を持つ男性は、モノ指向の分野、すなわち理工系なら数学、工学、コンピュータ科学、物理学などを志向する傾向が強いといわれます。このように、数学や科学の成績が同程度であっても興味関心に基^Aづき、男女の進路傾向が分かれていくという現象はあります。

こうした進路選択に影響する要因としては、何らかの生得的な要因に加えて、長期にわたり存在している伝統的なジェンダー役割イメージの影響はあるでしょう。たとえば女性は家の中で子どもという生物のケアをし、食べ物という化学物質を扱ってきました。男性は外に稼ぎに行き、そこでモノ作りなどに携わり、数えたり力学的な思考を必要とすることも多かったでしょう。

しかしそれだけではなく、短期間の社会的な変化が影響を及ぼすこともあります。たとえば、一九八〇年代初頭の米国においてコンピュータ科学の分野は専攻者に占める女子学生比率が三五%に達していましたが、一九八三年前後から急^Bに減少し、二〇一〇年には二割に満たない状況になってしまいました。

一九八〇年代初頭というのはコンピュータが家庭用ゲーム機として普及し始めた時期です。それより前の時代のコンピュータは玩具からは遠い、実務的な機械でしたが、ゲーム機の登場で「男子向け玩具」のイメージが強まりました。その途端に、女性が遠ざかっていったのでした。

このように日常の中で触れる道具からも人々はそれぞれのジェンダーについてのイメージを形成っており、それが大学の進路選択という問題にまで影響をすることがあります。

ジェンダーステレオタイプ(思い込み)と研究職の世界での差別

成人して進路選択をしたあとも、ジェンダーステレオタイプの問題はつきまといまいます。社会の中で共有されるジェンダー観が、無意識のバイアス^(注二)となり、それぞれのジェンダーに典型的ではない職業に就いた人に不利な働きをすることがあるからです。

やはり研究が多いのは理工系の女性研究者についてなので、それを見ていきましょう。アメリカの事例ですが、二〇〇四年の NIH Pioneer awards という研究計画の審査では、女性の受賞者がゼ

口でした。しかし、翌年、公募要綱にあった「高いリスクを取る」「強いリーダーシップ」という言葉を除き、審査委員にも女性研究者を入れたら、女性受賞者が全体の四三％に増加しました。審査委員の性別だけではなく、ジェンダーステレオタイプと結びつく文言を変えることで、女性の応募者の数と選出基準の双方に変化が生じたのです。

また、理工系で実験を行うような研究をする場合、必要とされるのはいわゆる知的能力や専門性に加えて、チームビルディングやリーダーシップといった人間関係上の能力です。それは、もともと男性の多い理工系の世界で、うまくリーダーとしてチームを率いることができるかという挑戦を意味します。女性の進出が比較的進んでいる米国であっても、この部分に難しさを感じる女性はまだまだ多いようです。これは、個人プレーで調査・研究をすればよい分野（大半の人文社会科学はそうです）を指す場合にはさほど経験しない類の悩みです。

たとえば、二〇一一年に改訂・出版された理系研究者のための研究室経営マニュアル、『アット・ザ・ヘルム』では、女性が自然に身につけている話し方——謙遜したり、感謝や謝罪の言葉をピンパンに述べたりすることや、氣遣って間接的な物言いをしたり、部下に命令するのをためらい「一緒に作業しましょう」と言ってしまうこと——が、ボスとして研究室を率いていく上でマイナスになりやすいと指摘しています。女性は男性と同じような言動、行動ができないと、**Ⅱ**、自信がなさそうとの印象を与え、評価が下がる危険性が高いのです。しかし残念ながら、女性が男性と全く同じように自分の手柄をコジシ、命令口調で話し、断定的な物言いをして、むしろ反感を買ってしまう可能性が高い、と同マニュアルは述べています。

女性的ではないけなが、男性と同じにしてもうまくいかない。この二重の板挟み、いわゆる「無理ゲー」的状况を認識しつつ、かつ、あまり考えすぎずに泳ぎ渡っていける人でないと出世するのが難しい。このことは、女性が初めてフェイスブックのCEOとなったシェリル・サンドバーグも指摘していました。伝統的に男性の多い職場にはしばしばみられる特徴が、理工系研究職の一部にも根強く残っているのです。そのため、女子学生によっては**心理的な難しさ**を感じ、たとえ才能があっても、研究室のスタッフもしくは補助的な役割のままでもいいという選択をしよう場合があります。

甲

日本の科学技術政策を定めている第四期科学技術基本計画（二〇一一年～二〇一六年）では、女性研究者の新規採用割合について、理学系二〇％、工学系一五％、農学系三〇％、および医学・歯学・薬学系あわせて三〇％という数値目標を定めていましたが、達成されませんでした。

また、女子学生に大学の理工系の魅力を伝えるため、中学生や高校生と女性研究者を交流させてロールモデルを示す取り組みもなされていますが、その成果も飛躍的とはいえないレベルに留まっています（特に大学進学については、むしろリーマンショック以降の不況なども考慮せねばなりません）。

このような現状について、女性がそもそも理工系に行くことを本当に望んでいるのかと取り組み自体を疑問視する声から、中学や高校の段階で女子生徒の理工系への情熱がどのように踏みにじられていくかを切々と訴える声まで、実に様々な意見があります。

取り組み自体の意義を認める人でも、数値目標だけが前面に出ていることへの違和感はしばしば共有されています。教育現場でのジェンダー差別について社会的な議論が深まる前に、数値目標だけが一人歩きしてしまった側面は否めません。

この機会に改めて、なぜ現在、科学技術人材育成におけるジェンダー格差を減らすことが国際的なレベルでショウレイ^dされているのか改めて整理してみたいと思います。実際の所、このような政策の背景には **Ⅲ** とも言える様々な考え方がありますが、基本的には、次の三つの論点^dが背景にあると理解してよいでしょう。

- (一) 性差別は人権の問題であり、全ての人に適性に応じた進路選択、職業選択の自由が保障されるべく政府は努めねばならない。
- (二) 少子化・理系離れ(先進国に共通)による将来的な科学・技術者不足に対処するためある。
- (三) 多様性 (diversity) の推進の一環として、研究に「多様な人々」が参加すること自体

が科学・技術の研究を豊かなものにして、それまでにない新しい発見を増やしてくれる。このうち、(一)と(二)はあまり説明の必要がないでしょう。理工系は先進国においては比較的就職率がよく、高い生涯賃金をもたらす仕事に就くことが期待できる分野です。女性がそうした分野に自信を持って参入ようになることは、女性の職業選択の自由が広がることと、理工系人材の充足という二つの目標達成につながります。また、同じくジェンダーステレオタイプに影響され、人文系を回避していたような男性が自由に進路を選ぶことにつながるかもしれません。

ただし(一)は **ア**、(二)は少子化の進む日本という国家の事情ですから、両者は性質の違う、場合によっては利害の一致しない目標でもあります。また、(二)は国家の理工系重視な姿勢がロコツ^eに出ていると感じる文系の方もいるかもしれません。

(三)については少し解説が必要かと思えます。これは二一世紀のイノベ^(注五)ーション政策に由来する考え方だからです。企業の労働環境についての議論で、ダイバーシティ、あるいは「多様性」とか、インクルージョン、あるいは「包摂」といった言葉を耳にした方も多いのではないのでしょうか。それと同じ思想に由来するものです。

まず、ここで、「多様性」というのは多様な人々が増えるというニュアンスです。一般的に、決まったタイプの人しか理工系の研究にあまり参加していないことは、科学・技術研究のあり方を狭めてしまう危険性があるといわれています。それは必ずしも男女の問題だけではなく、文化や国籍、貧富の格差、異性愛・同性愛といった性的指向の問題、障害の有無などあらゆる「多様性」が関わります。女性の問題はその一つとよいでしょう。

歴史的にも理工系には先進国の男性が多かったわけですが、その結果、その種の人々にとって関心の深いテーマの研究は非常に発達するが、そうでない分野については思わぬ視^E点の欠落があることが知られています。そして、その状況はマイノリティにとって、時に生命に関わる危険な見落としを孕^{はら}んでいることがあります。

一つ例をあげましょう。医学の分野では、長い間、疾患を扱う際に肉体の性差を大きな問題として捉えない傾向がありました。男女の知性の性差が散々疑われたことからすれば奇妙な話ですが、首から下の健康についての問題では、男性の身体が長い間、モデルとして使われてきたのです。心

臓の薬について治験をするような場合でも男性の被験者だけを募って調べればよいとされてきました。女性の身体には生理など様々な体調の変化があるため、実験結果の解釈が難しくなるという事情もあったようですが、いずれにせよ長い間、女性の身体は十分に考慮されませんでした。そうしたところ、二十一世紀も近づいてからようやく、男性と女性では細胞レベルでの違いがあり、男性と同じ量の化学物質に女性の身体が違う反応をする危険性があるということがわかりました。これは悪くすると命の危険に関わる問題です。

視点の欠落があったということは、逆に言えば、研究の現場に多様な人々を増やすことで、従来のない発想を呼び込み、新たなイノベーションの創出につながれるということでもあります。たとえば、現状のゲームは男の子の関心を集める商品が多いですが、女の子が興味を持つゲームを、より大規模かつ容易に開発できるようになれば、新たな市場の開拓にもつながるでしょう。

このような考え方には、単に従来の理工系の現場に女性を参入させるだけでなく、理工系にこれまでであった文化自体を多様な人々にあうものに変えていこう、との発想があります。自然な興味関心から、女性も理工系の分野に関わっていけるようにすることが目指されており、実際にその一部は成功しつつあります。

そのようなチヨウリュウウの担い手には、アメリカのスタンフォード大学の科学史家ロンダ・シービンガーなどがいますが、彼女たちは、従来の「女性研究者育成支援」が上手くいかなかったことの反省から、「ジェンダー分析的視点を取り入れたイノベーション」(Gendered innovations)という取り組みが続けています。これは、ジェンダーに関する人文社会科学系の知見を、理工系の研究開発現場で活かしていくものです。二〇一〇年代には欧州のイノベーション振興政策においても導入されました。研究開発とイノベーションの現場では、ジェンダーという点からも、

イ

が生まれているのです。

隠岐 さや香「文系と理系はなぜ分かれたのか」(星海社 2018年)

(注一) ロールモデル：役割を担うモデル。模範となる人。

(注二) バイアス：偏見。先入観。

(注三) 無理ゲー：難度が高いコンピュータゲームのこと。転じて、実現不可能な物事のこととえ。

(注四) COO：Chief Operating Officer の略。最高業務執行責任者。

(注五) イノベーション：技術革新。社会的意義のある新たな価値創造。

※ 問題作成にあたり、本文を一部改変した。

問1 傍線部 a～f のカタカナを漢字に直せ。解答は、解答用紙の所定欄に読みやすいはつきりした楷書体で書くこと。解答番号は ～ 。

a ユウイ

b ヒンパン

c コジ

d ショウレイ

e ロコツ

f チョウリュウ

問2

空欄

。 解答番号は 。

に入る語として最も適当なものを、次の①～⑧のうちから一つ選べ。解

① 安定感

② 優越感

③ 既視感

④ 正義感

⑤ 親近感

⑥ 劣等感

⑦ 未視感

⑧ 責任感

問3

空欄

。 解答番号は 。

に入る語として最も適当なものを、次の①～⑧のうちから一つ選べ。解

① 事後判断

② 常住不断

③ 九腸寸断

④ 殺生禁断

⑤ 迅速果断

⑥ 優柔不断

⑦ 当機立断

⑧ 剛毅果断

問4

空欄

。 解答番号は 。

に入る語として最も適当なものを、次の①～⑧のうちから一つ選べ。解

① 同名異人

② 堅白異同

③ 同床異夢

④ 異体同心

⑤ 異路同帰

⑥ 異字同訓

⑦ 異口同音

⑧ 同工異曲

問5 空欄 ア

一つ選べ。解答番号は 10。

- ① 個人の権力の問題
- ② 個人の自由の問題
- ③ 個人の自信の問題
- ④ 国家の権力の問題
- ⑤ 国家の自由の問題
- ⑥ 国家の威信の問題

問6 空欄 イ

一つ選べ。解答番号は 11。

- ① 人文社会系と理工系の接点
- ② 知見と研究開発現場の接点
- ③ 新たな経済市場開拓の成功
- ④ 女性の理工系進学率の向上
- ⑤ 欧州基準のイノベーション政策の実現
- ⑥ 欧州基準の女性研究者育成支援の実現

に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから

問7 傍線部 A 「男女の進路傾向が分かれていく」の説明として最も適当なものを、次の①～⑥

のうちから一つ選べ。解答番号は 12。

- ① 大学の進路選択には、個人に本来備わっている生まれつきの性質が男女に関係なく最も強く影響するということ。
- ② 大学の進路選択には、女性は生物のケアをし、男性は外に稼ぎに行くという、人類が誕生以来獲得してきた能力が大きく影響するということ。
- ③ 大学の進路選択は、個人の興味関心に基づくものであるので、社会的な変化から影響を受けることはないということ。
- ④ 身近なロールモデルの存在から進路選択に大きな影響を受けるのは女子学生に限定的であることが、実験から分かったということ。
- ⑤ 男女の進路傾向が文系・理系に分かれていく現象は、数学や科学の成績が同程度である場合に限られるということ。
- ⑥ 大学の進路選択においても、伝統的ジェンダー役割イメージが影響する場合があるという

問8 傍線部B「一九八三年前後から急に減少」の理由として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 13。

- ① コンピュータが家庭用ゲーム機として普及し始めた結果、男性の家庭滞在時間が長くなり、女性の役割イメージが変化したため。
- ② コンピュータが家庭用ゲーム機として普及し始めた結果、ユーザーにも力学的思考が必要とされるようになり、女性に忌避されたため。
- ③ コンピュータが家庭用ゲーム機として普及し始めた結果、女性の興味は人や生物指向の分野に向かったため。
- ④ コンピュータが家庭用ゲーム機として普及し始めた結果、「男の子向け玩具」というイメージが形成され、女性に敬遠されたため。
- ⑤ コンピュータが家庭用ゲーム機として普及し始めた結果、「男の子向け玩具」しか開発されず、女性ユーザーは排除されたため。
- ⑥ コンピュータが家庭用ゲーム機として普及し始めた結果、男性的な実務的側面が強くなり、女性に忌避されたため。

問9 傍線部C「心理的な難しさ」にあてはまる最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 14。

- ① もともと男性の多い理工系分野で、元来個人プレーを好む女性が、チームビルディングのような人間関係構築能力を必要とされること。
- ② もともと男性の多い理工系分野で、女性リーダーは、女性からも男性からも反感を一つも買わずにコミュニケーションをとらなければならないこと。
- ③ もともと男性の多い理工系分野で、女性は感謝や謝罪の言葉に代表される細やかな気配りをしながらも独断的なリーダー像を求められるということ。
- ④ もともと男性の多い理工系分野で、女性が自然に身につけてきた話し方は自信がなさそうな印象を与えるため、改善が求められるということ。
- ⑤ もともと男性の多い理工系分野で、女性が出世するには、女性蔑視社会の伝統に対して鈍感であり続けなければならないということ。
- ⑥ もともと男性の多い理工系分野で、女性がリーダーシップを発揮するには、男性同様になるまうことが求められる一方で、男性同様でもいけないということ。

問10 傍線部D「科学技術人材育成におけるジェンダー格差を減らす」の背景にあてはまるものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 15。

- ① 女性が理工系分野に参入することで、謙虚な人材の確保が期待できる。
- ② 女性が安定した職に就くことで、出生率向上も期待できる。
- ③ 理工系分野での多様性を認めることで、新たな価値創造が期待できる。
- ④ 理工系に限らず多様性を認める世界の動きに日本も賛同する必要がある。
- ⑤ 国家として、多様性を認めて貧富の差を縮めることが必要である。
- ⑥ 少子化が問題となる日本では、人材不足をAIで補う必要がある。

問11 傍線部E「視点の欠落」をなくすことにより生じる内容としてあてはまるものを、次の①～⑥のうちからすべて選べ。ただし、あてはまるものすべて選ばなかった場合は点を与えない。また、あてはまらないものを選んだ場合も点を与えない。解答番号は 16。

- ① 現状のゲームは「男の子向け玩具」のイメージが強いが、女性向けに開発することで新たな市場が獲得できる。
- ② ある研究計画の審査における評価基準からジェンダーステレオタイプの文言を除外すると、女性研究者が増加する。
- ③ 理数系科目において、男性教師ではなく女性教師の講習を受けると、女子学生は心理学に積極的な興味関心を示す。
- ④ 先進国では理工系重視であったが、多様性の観点から人文社会系重視社会へ移行することで、就職率が向上する。
- ⑤ 医療分野で男性の身体をモデルとしてなされてきた治験の結果では、女性の命に危険が及ぶ可能性もあったが、その問題が改善される。
- ⑥ 第四期科学技術基本計画における女性研究者の新規採用割合の数値目標だけを前面に出さずとも、社会的に議論する時間が増加する。

問12

空欄

甲

に入る小見出しとして最も適当なものを、次の①～⑧のうち

から一つ選べ。解答番号は

17

。

- ① 新たなイノベーションはなぜ誕生したのか
- ② 女性になぜ理工系の魅力が伝わらないのか
- ③ 医学ではなぜ男女の性差が重視されたのか
- ④ 欧州の女性研究者支援はなぜ失敗したのか
- ⑤ 国家はなぜ理工系重視の姿勢をとるのか
- ⑥ 女性研究者はなぜ新規採用されないのか
- ⑦ ジェンダー格差はなぜ問題視されるのか
- ⑧ 数値目標だけがなぜ前面に出ているのか

問13

本文の内容に合致するものを、次の①～⑨のうちから二つ、選べ。ただし、二つとも正解しなければ点を与えない。解答の順序は問わない。解答番号は

18

19

- ① 一九八〇年代初頭の米国においてコンピュータ科学専攻者に占める女性比率が三五％に留まっていたのは、当時普及し始めたコンピュータが実務的であり、きわめて男性的要素が強かったことが原因である。
- ② 理数系科目における女子学生の進路選択で、女性は人や生物指向の分野に興味を感じ、医学、畜産学、生物学などを志向する傾向が強いが、それはもっぱら生まれながらに女性が持つ性質に起因する。
- ③ 二〇〇四年の NIH Pioneer awards という研究計画の審査で受賞した女性たちは、男性と同じような口調で断定的な物言いをして、感謝や謝罪の言葉を忘れなかったため、男性社会における新しいリーダー像として高く評価された。
- ④ これまで社会の中で共有されてきたジェンダー観に基づく偏った思い込みによって、人文系を進路として選ぶことを回避していた男性も、社会全体で多様性を認める動きが推進されると、その分野を進路として選ぶ可能性が出てくる。
- ⑤ 医療現場ではダイバーシティの考え方にに基づき、男女の知性の性差よりも身体面が重視されたため、早くから男女の身体の違いが着目され、それぞれの体調の変化に応じた治療が行われた。
- ⑥ 日本の第四期科学技術基本計画で目標とされた女性研究者の新規採用割合が達成されなかったため、すでにジェンダー分析的視点を取り入れたイノベーションを実現させている欧州から多様性の視点が欠落しているという批判を浴びた。
- ⑦ 科学・技術の研究を豊かなものとする多様性は、従来男性中心であった理工系の現場に女性を参入させることだけで実現するため、日本は第四期科学技術基本計画で目標とされた数値を早期に達成する必要がある。
- ⑧ 研究現場の多様性が認められれば、これまで消費者として加わることがなかった女性が市場に参入することになり、たとえば男性ユーザーを中心に考えられていたゲームをそのまま女性が楽しむことも可能となる。
- ⑨ 研究の現場に多様な人々が入ってくることで、従来の研究現場にこれまでであった文化自体を、多様な人々にあうものに変えていこうという発想につながり、それが新たな価値創造にも結びつく。

II

次の文章を読んで、後の問い(問1～13)に答えよ。(配点 75)

小林が歌舞伎の近代化による新しい歌劇文化の創設を提唱するとき、そこには明らかに、それとは異なる、西洋から輸入した音楽やオペラを前面に押し出す一派に対抗しようとする意識が見え隠れしている。

小林は旧劇の行き詰まりとともに新劇もまた行き詰まっていることを指摘するなど、西洋的な芸術のあり方をそのまま取り込もうとする行き方に様々な形で疑問を投げかけている。それゆえ彼は一方では、西洋音楽の教育が普及し、若い世代は皆西洋的な唱歌に親しむようになっていく今、^aキユウヘイな日本音楽を伴ったような古い歌舞伎がもはや見向きもされなくなつてゆくであろうことを再三にわたつて指摘しつつも、他方では西洋的な音楽実践をそのまま持ち込もうと考えるような人々への批判を展開する。

西洋音楽に精通した先生方のお説は、お説としては殆んど千篇一律で何れも西洋音楽の賛美であり、心酔であります。然しながら、如何にすれば、此高尚なる、進歩したる、心酔せる音楽を日本人のものにすることが出来るか、即ち普及せしむる事が出来るか、といふ實際問題に触れる場合には、殆んどムテイケンと評しても宜しからうと思ひます。……其結果は西洋音楽の見本を陳列して、ハイドン、ベートフエーン、モツアルト、シュベルト、ワグネル、シユマン、シヨパン、等其特色に傾聴するのみであつて、此優越せる楽器の利用、楽譜の活用、即ち西洋音楽の長所を日本音楽界に適用する方法に就ては甚だしく誤解してゐるやうに思はるゝのであります。

(小林一三「西洋音楽の普及と墮落との區別」、一九二二・一、一二)

此まゝ進んでゆくものとせば、西洋音楽なるものは、日本国民の音楽とならずして、智識階級や又は特種階級の高尚なる芸術品として深く一局部に限定されたる音楽、それは西洋そのまゝの移植されたる外国音楽として好愛さるゝに過ないかも知れまいと思ひます。

(小林一三「西洋音楽の普及と墮落との區別」、一九二二・一、二三)

この発言は、西洋のオペラをそのまま日本に持ち込もうとした一部エリートの目論見が失敗に終わったという背景を受けてのものである。明治四十四年に開場した帝国劇場は、茶屋の廃止、上演時間の短縮をはじめとする新しい観劇制度を導入した初の近代的劇場であったが、その年の七月には歌劇部が組織され、さらに翌年にはイタリアから招聘したローシーの指導のもとで活発な公演活動を展開した。しかし経済的にも破綻し、評判も今ひとつというところで、結局大正三年五月で歌劇部は消滅している。ローシーはその後、私財をなげうって赤坂にローヤル館なる歌劇場を設け、帝劇歌劇部から移ったメンバーを中心に活動を開始するが、こちらにもまもなく経営が破綻し、ローシーは大正七年三月に失意のうちに日本を去つた。

この時代の帝劇やローヤル館でのオペラ活動をみると、西洋への志向の強さが窺える。帝劇歌劇部創設の年の末にはやくもイタリア人歌手のサルコーリを招いて『カヴァレリア・ルステイ

カーナ』(部分、原語上演)の公演が行われているし、とりわけローシーの来日後は『夜の森(ヘンゼルとグレーテル)』(大正二年二月)、『魔笛』(大正二年六月)など、日本語に訳され翻案・再構成されているとはいえ、基本的には西洋の作品をもちこんでそっくり上演するパターンが中心であった。もちろん、明治四十五年に上演された『熊野』のように、日本人の創作になる、歌舞伎に題材を取ったようなオペラもないわけではない。しかしこの『熊野』のケースでも、もともと東儀鉄笛が作曲していたのだが、上演間際になって東京音楽学校から帝劇管弦楽部の指導者として呼ばれていたウンケルの曲に差し替えられ、その音楽のあまりの不調和が公演大失敗の原因になったとされている。いずれにしても、このような西洋志向が人々の要求と甚だしく乖離しており、そのことが帝劇やローヤル館での公演がごとく不人気に陥った原因であったことははっきりしている。こうして日本で芽生え始めたオペラ文化のかすかなタイドウは、あえなく終焉を迎えたのである。

西洋の歌劇は斯々である、其歴史は斯々であるといふ様な標準と其の理想から見て、遠い遠い夢の様な幻影にあこがれて日本の歌劇の立脚地を得ようとするのではありません。

(小林一三「日本歌劇の第一歩」、一九一八・八、一二)

と言うとき、小林が批判の対象として念頭に置いていたのは、このような帝劇＝ローヤル館流のオペラのあり方であった。『熊野』の上演を見たことが、宝塚少女歌劇の構想を抱く一つのきっかけになったという小林であったが、その眼にはここでの試みが聴衆と遊離した、一部特権階級・知識階級の **I** にもとづく無益な試みとして映っていたのである。少女歌劇はまさにそういう「西洋直輸入路線」に対するアンチテーゼでもあった。そしてこうした小林の路線は、歌舞伎改良をめざす進歩的な歌舞伎役者などにきわめて **II** に受け止められたのであった。松本幸四郎(七世)は、大正五年に刊行された宝塚少女歌劇脚本集第一集に「成功したる少女歌劇」という一文をのせている。「西洋のオペラが日本の劇壇に調和しうる芸術として果して存在し得るや、或いは特種の日本化したオペラを組立て得るやと云ふ様な疑問は長い間識者の注意を惹いて居た問題であらうと思ひます」という書き出しで始まるこの論考の中で幸四郎は次のように宝塚を評価している。

東京の帝劇で時々開演します歌劇よりも立勝つて居る点は、帝劇のは何処までも西洋の作曲のまゝで、日本語に翻訳した歌詞を唄つてやるのですから生硬を免れませぬけれど、宝塚のは作曲も歌詞も純日本式の創作ですから非常に振に合つて居ますし、振も亦腰から下の運動はオーケストラの西洋楽に巧く合ひ、腰から上の運動は日本の舞踊を器用に取り入れて此二つが目立たないやうに混和されてあるのは実に感心です。

(『宝塚少女歌劇二十年史』、一九三三年、宝塚少女歌劇団、一五ページ)

小林が旧劇たる歌舞伎をベースにした歌劇文化を構想したということは、将来の日本の歌劇文化のあり方をめぐるこの二つの陣営の間の路線論争においてその重要な一角を占めることを意味して

いた。この論争はまた同時に、西洋との接触の中で、西洋文化といかにつき合ってゆくかという基本的なスタンスのあり方をめぐる論争でもあった。もちろん小林は西洋化否定論者などではない。彼が書いたものを讀むと、とりわけ音楽についてははつきりと、伝統的な日本音楽がもはや力を失っていること、西洋音楽を積極的に取り入れることが日本文化にとって急務であることがいたるところで力説されている。それゆえ、ここでの問題は、西洋化対伝統ポクシユ^dという二項対立ではなく、西洋化をすすめてゆくにあたって、西洋の文化を基本的にそのまま取り入れてそれを日本化するという方向でゆくべきか、それとも、日本の伝統的な文化の枠組みの中に西洋的な要素を積極的に取り入れてゆくという方向でゆくべきかという二項対立であった。そして小林はその後者の側に立つ陣営の中心を占める存在として自らを位置づけたのである。

もちろん、この時代の日本の歌劇文化の状況を「西洋直輸入」の帝劇Ⅱローヤル座路線と「和洋折衷」の宝塚という二分法だけで括^くって捉えてしまうのは、いささか乱暴であろう。帝劇やローヤル座での公演に参加していたメンバーの多くは、ローヤル座が解散した後、浅草などを根城に、いわゆる「浅草オペラ」と総称される活動を展開したのだが、彼らはこれまでの失敗に懲りて、大衆化・通俗化路線を打ち出すようになった。上演される演目はほとんどオペレッタばかりで、歌詞なども「ベアトリ姉ちゃん まだねんねかい 鼻からチョーチンを出して」といった具合に、日本人の当時の感覚に通じるように相当に俗っぽいものに翻案されていた。しかし、浅草オペラの場合も、個別的なケースはいろいろあるにせよ、基本的な路線としては西洋の作品をいかに日本人にわかりやすく、受けるように翻案するかということに精力が注がれているのであり、宝塚のような全作オリジナルのあり方とは相当に違っていた。新作が作られる場合でも歌舞伎改良のような発想はほとんどみることができないから、基本的には宝塚が西洋的な要素を取り込んで日本文化をいかに改良するかという発想に根ざしているのに対して、浅草オペラの場合には基本的な方向としてはやはり帝劇Ⅱローヤル座系統の「直輸入路線」を引き継いでいたものとみることができると思われる。それに加えてこの浅草オペラは、帝劇Ⅱローヤル座流の「本格的」オペラが大衆に迎合して俗化してしまった頹落形態^{たいらく}とみなされており、「本格的」オペラの名に値するものをなにかもっているような存在とは到底考えられていなかった。当時「浅草式」と言えば、そのような品格の欠けたものの代名詞であり、そこに出入りする「ペラゴロ」はほとんど不良扱いをされたといっても過言ではなかった。『歌劇』誌上でも、しばしば宝塚に批判的な意見が寄せられる際に、「いかなる場合と雖も、浅草趣味のオペラコミックは絶対に避くべきである」(黄金冠「第三者の言葉」、一九二〇・一、一一)といった意見が出されたかと思うと、批判された側は「『八犬伝』は決して大阪^{注三}仁輪加^{にわか}でもなく、浅草式の俗受けでもありません」(坪内士行「問題としての時代錯誤歌劇」、一九二〇・一一、八)などと反論したりしており、浅草オペラが「本格オペラ」を目指す宝塚の^eコウテキシユであるなどと考えている者は誰もいなかった。実際、浅草に出入りする「ペラゴロ」をターゲットに出されていた『オペラ』という雑誌を眺めてみると、歌劇俳優の人気投票をやっていたかと思えば、「恋愛実話号」、「歌劇俳優と性的生活号」などという首をひねるようなタイトルの特集号が出てくるといった有様で、歌劇の内容以前に、それをめぐるファン層が相当に軌道はずれており、それがまた批判をバイカ^fさせていたことが推察される。もちろん戸山英二郎(藤原義江)を筆頭に、浅草オペラが個別には日本の「本格的」歌劇文化を担う人材を生み出したことは疑いのな

い事実であるのだが、ア というレベルで考える限り、宝塚の「和洋折衷」路線はあくまでも、すでに潰れてしまっていた帝劇⇨ローヤル座流の「直輸入」路線との二項対立関係の中で機能していたとみるべきであろう。

渡辺 裕「宝塚歌劇の変容と日本近代」(新書館 1999年)

(注一) アンチテーゼ：反対の意見・主張。

(注二) オペレッタ：軽い内容のオペラ。娯楽的な喜歌劇が多い。

(注三) 大阪仁輪加：江戸時代に大阪の地で生まれた即興の芝居。

※ 問題作成にあたり、本文を一部改変した。

問1 傍線部 a～f のカタカナを漢字に直せ。解答は、解答用紙の所定欄に読みやすいはつきりした楷書体で書くこと。解答番号は 20 ～ 25。

a キュウヘイ 20

b ムテイケン 21

c タイドウ 22

d ボクシユ 23

e コウテキシユ 24

f バイカ 25

問2 空欄 I ・ II に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑧のうちからそれぞれ一つ選べ。解答番号は 26 ・ 27。

I ① 選良支配 ② 流言飛語 ③ 罵詈雑言ばりざごん ④ 大義名分 26

⑤ 横暴支配 ⑥ 大言壮語 ⑦ 空理空論 ⑧ 金科玉条

II ① 主観的 ② 皮相的 ③ 退廃的 ④ 特権的 27

⑤ 客観的 ⑥ 普遍的 ⑦ 伝統的 ⑧ 好意的

問3 空欄

ア

に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑧のうちから

一つ選べ。解答番号は 28。

- ① 西洋オペラの本歌取りによる歌劇文化の形成
- ② 浅草オペラが墮落した大衆化・通俗化の限界
- ③ 伝統的枠組みを抜け歌舞伎改良を目指す野心
- ④ 大衆への迎合を戒め高尚なる芸術に心酔する
- ⑤ 歌劇に伝統的な要素をどこまで取り込むのか
- ⑥ 日本文化を支えていく優良なファン層の獲得
- ⑦ 歌劇文化の基本的な方向性をめぐる路線論争
- ⑧ 日本独自の歌劇を背負う独創的な人材の育成

問4

傍線部A「古い歌舞伎がもはや見向きもされなくなってゆくであろう」の理由として最も適

当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 29。

- ① 西洋音楽の教育が普及したことで、日本の若い世代は西洋的な唱歌や西洋から輸入したオペラに親しむようになっており、古い歌舞伎にはいざれ親しめなくなると考えられるから。
- ② 西洋音楽の教育が普及し、西洋音楽の演奏会が毎日のように国内で開かれている中、若い世代はもはや日本音楽に基づく歌舞伎を受け入れられなくなると考えられるから。
- ③ 西洋から輸入した音楽やオペラを前面に押し出す一派が国内で台頭し、その影響を受けて若い世代は新劇を支持していくことになると考えられるから。
- ④ 若い世代には日本の歌舞伎は知識階級や特権階級の愛好する芸術であり、西洋のオペラと比べ芸術的に劣っているように映ると考えられるから。
- ⑤ 若い世代にとって知識階級の高尚なる芸術品である西洋のオペラに比べると、日本の音楽を使う歌舞伎は見劣りすると考えられるから。
- ⑥ 若い世代の日本人は西洋音楽の教育を受けて育ち、西洋的な音楽に慣れ親しんできたため、日本の音楽を用いる歌舞伎にはなじめなくなると考えられるから。

問5 傍線部B「西洋的な音楽実践をそのまま持ち込もうと考えるような人々」の説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 30。

- ① 西洋音楽の長所を十分に理解し、なおかつこれを日本の音楽界にそのまま適用する方法についても正しく理解している人々。
- ② 西洋から輸入した音楽やオペラを賛美し、これを日本音楽にどのようにして取り込めば高尚なる芸術品として仕上げられるかを考える人々。
- ③ 西洋の音楽作品に心酔する一方で、これをどのようにして日本で普及させるかについて十分に考えることがないままに上演する人々。
- ④ 西洋音楽に精通しており、ハイドン、ベートーベン、モーツァルト、シューベルトなどの西洋音楽家の楽譜をそのまま紹介する人々。
- ⑤ 西洋から音楽作品をそのまま輸入し、高尚なる芸術品として知識階級や特殊階級などの音楽愛好家に販売する人々。
- ⑥ 西洋音楽がそのまま日本国民の音楽としても受容されるよう、イタリアから招聘したローシーの指導のもとで活発な公演活動を展開する人々。

問6 傍線部C「失敗に終わった」の理由として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 31。

- ① 帝国劇場の歌劇部やローシーが創設したローヤル館は経済的にも破綻し、旧劇に比べ評判が今ひとつであったから。
- ② 茶屋の廃止や上演時間の短縮を行った帝国劇場の新しい観劇制度が、人々の要求と甚だしく乖離していたから。
- ③ 帝国劇場から招聘され、その後私財を投じてローヤル館を設けたローシーの指導が日本人の西洋志向に合わなかったから。
- ④ 帝国劇場やローヤル館でのオペラ活動は、西洋への志向が強かった点で、聴衆の要求と著しく遊離していたから。
- ⑤ 帝国劇場やローヤル館で行われた公演の音楽が旧劇の作品とあまりにも不調和であり、不評を買ったから。
- ⑥ 帝国劇場やローヤル館でのオペラ上演は西洋的な芸術のあり方を批判し、日本の伝統との調和を目指すものであったから。

問7 傍線部D「終焉」から最も意味の遠い語を、次の①～⑧のうちから一つ選べ。解答番号は 32。

- | | | | |
|------|-------|------|------|
| ① 終日 | ② 幕切れ | ③ 末期 | ④ 最期 |
| ⑤ 結末 | ⑥ 末路 | ⑦ 閉幕 | ⑧ 末尾 |

問8 傍線部E「こうした小林の路線」の説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 33。

- ① 歌舞伎に題材を取った日本人の創作になるオペラを、西洋から輸入した音楽をそのまま用いて、上演しようとする事。
- ② 西洋から輸入した音楽をそのまま用いるのではなく日本式に創作した楽曲を用いながら、西洋直輸入の歌劇を上演しようとする事。
- ③ 西洋から輸入した音楽やオペラをそのまま持ち込むのではなく、歌舞伎をベースとしながらそこに西洋の楽器や音楽も取り入れた歌劇を創作しようとする事。
- ④ 西洋からオペラを輸入し、それを日本の劇場でそのまま上演するのではなく、歌詞を日本語に訳し再構成した上で、日本音楽を使い上演しようとする事。
- ⑤ オペラや音楽を西洋から直輸入し、特権階級や知識階級のためではなく大衆のために本格的歌劇として上演しようとする事。
- ⑥ 若い世代に見向きもされなくなりつつある歌舞伎を、オペラや西洋音楽と組み合わせることにより、進歩的な歌舞伎役者から評価される歌劇として上演しようとする事。

問9 傍線部F「いささか乱暴であろう」の理由として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 34。

- ① このような二分法だけで括る場合、西洋の文化を基本的にそのまま取り入れてそれを日本化するという方向でゆくべきか、それとも、日本の伝統的な文化の枠組みの中に西洋的な要素を積極的に取り入れてゆくという方向でゆくべきかという二項対立とずれてしまうから。
- ② このような二分法だけで括る場合、西洋の文化をそのまま取り入れ日本化するという方向と日本の伝統的な文化の枠組みの中に西洋的な要素を積極的に取り入れてゆく方向との二項対立と矛盾する分類法になってしまうから。
- ③ このような二分法だけで括る場合、基本的な路線としては西洋の作品を日本人にわかりやすく、受けるように翻案することに傾注していた「浅草オペラ」が宝塚と同じ「和洋折衷」路線に分類されてしまうことになるから。
- ④ このような二分法だけで括る場合、「西洋直輸入」の帝劇Ⅱロイヤル座路線とも「和洋折衷」の宝塚とも異なる「浅草オペラ」に総称される路線が、行き詰まりを見せている歌舞伎と同じ範疇はんちゆうに入ることになるから。
- ⑤ このような二分法だけで括る場合、西洋の作品を日本人にわかりやすく、受けるように翻案し、宝塚とは異なり歌舞伎改良のような発想で新作を作る「浅草オペラ」が「西洋直輸入」の帝劇Ⅱロイヤル座路線に分類されてしまうという問題が生じるから。
- ⑥ このような二分法だけで括る場合、帝劇やロイヤル座の系統を引き継ぎながらもその系統とは異なる大衆化・通俗化路線を打ち出し、「西洋直輸入」路線にも「和洋折衷」路線にも厳密には当てはまらない「浅草オペラ」が抜け落ちてしまうことになりかねないから。

問10 傍線部G「大衆化・通俗化路線を打ち出すようになった」の理由として最も適当なものを、

次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は

35。

- ① 帝劇やローヤル座のオペラ上演が西洋の作品を日本にもちこんできてそっくり上演するパターンが中心であったがゆえに、古い歌舞伎と同じく高尚なものとして一般の観客に支持されなかったという失敗があったため、「浅草オペラ」を一般受けするものにしたかったから。
- ② 「西洋直輸入」の帝劇⇨ローヤル座路線が日本国民の求める歌劇からはずれ、一部の知識階級や特権階級にしか受けず破綻することになったため、「浅草オペラ」は俗受けする全作オリジナル作品を上演するしかなかったから。
- ③ 「西洋直輸入」路線を展開した帝劇やローヤル座の試みは日本国民の求めるオペラからは遊離した作品の上演が原因で破綻したため、「浅草オペラ」はいわゆる「ペラゴロ」をターゲットにし、歌舞伎にあるような娯楽志向の強い作品の上演を目指したから。
- ④ 帝劇やローヤル座の活動が西洋のオペラ作品を日本にもちこみそのまま上演することを中心にしていたがゆえに聴衆の要求と甚だしく乖離することになったという失敗があったため、「浅草オペラ」は聴衆に受容されやすい内容にする必要があったから。
- ⑤ 帝劇やローヤル座の「西洋直輸入」路線は知識階級や特権階級の高尚なる芸術作品として制作費が高く破綻したため、「浅草オペラ」は一般の国民にもわかりやすく受けるような作品にしたかったから。
- ⑥ 「浅草オペラ」と総称される活動を展開した人たちは、かつて帝劇やローヤル座での公演に参加しており、西洋のオペラを日本にそのまま持ち込み、経営的に破綻したという失敗に懲りたため、制作費の安い作品を求めたから。

問11 傍線部H「ほとんど不良扱いをされた」の理由として最も適当なものを、次の①～⑥のうち

ちから一つ選べ。解答番号は

36。

- ① 「ペラゴロ」は、「浅草オペラ」に出入りすることにより歌劇俳優との性的生活を志向するなど、素行に問題があったから。
- ② 「ペラゴロ」は、『オペラ』という雑誌を購入することを通じ、俗受けする大衆化路線に走り品格を欠いていた「浅草オペラ」を支えていたから。
- ③ 「ペラゴロ」は、帝劇やローヤル座の「西洋直輸入」路線を基本的な方向として引き継いでいた「浅草オペラ」に、出入りしていたから。
- ④ 「ペラゴロ」は、宝塚のような「和洋折衷」路線を肯定し大衆化・通俗化路線を打ち出していた「浅草オペラ」に、出入りしていたから。
- ⑤ 「ペラゴロ」は、本格的オペラからはほど遠く大衆に迎合して通俗的であり品格の欠ける「浅草オペラ」に、出入りしていたから。
- ⑥ 「ペラゴロ」は、「本格オペラ」を目指す宝塚とは異なり歌舞伎改良を志向して大衆化・通俗化路線を打ち出していた「浅草オペラ」に、出入りしていたから。

問12

本文の内容に合致するものを、次の①～⑨のうちからすべて選べ。ただし、合致するものをすべて選ばなかった場合は点を与えない。また、合致しないものを選んだ場合も点を与えない。解答番号は

37

- ① 明治末から大正期にかけての日本の歌劇文化は、歌舞伎に題材を取った日本人による創作オペラがない中、直輸入したオペラを上演する帝劇やローヤル座のような路線と歌舞伎をベースとした和洋折衷を目指す宝塚のような路線と大きく二分されていた。
- ② 「ペラゴロ」が出していた雑誌『オペラ』が「歌劇俳優と性的生活号」といった首をひねるようなタイトルの特集を組むなど、浅草に出入りしていた「ペラゴロ」は相当に軌道をはずれた行動をしており、ほとんど不良扱いされていたといっても過言ではなかった。
- ③ 小林一三に宝塚少女歌劇の構想を抱く一つのきっかけを与えたオペラ『熊野』は東儀鉄笛の作曲で上演される予定であったが、東京音楽学校が上演間際に指導者として招いたユンケルの曲に差し替えられ、その音楽のあまりの不調和ゆえに公演は大失敗となった。
- ④ 帝劇やローヤル座で公演に参加していたメンバーの多くが後に活動を展開することになった「浅草オペラ」は、日本の「本格的」歌劇文化を担う人材を輩出できず、帝劇⇨ローヤル座流の「本格的」オペラが大衆に迎合して俗化してしまっただけの状態とみなされている。
- ⑤ 歌舞伎を基本にしながら西洋の要素も取り込み、いわば和洋折衷路線により日本の新しい歌劇文化を創設していくという、小林一三が宝塚少女歌劇で取った姿勢は、松本幸四郎（七世）のような保守的な歌舞伎役者からも一定の評価を受けることになった。
- ⑥ 歌舞伎の行き詰まりを指摘した小林一三の目には、「西洋直輸入」によりオペラ上演を試みる帝劇やローヤル館の試みも、聴衆と遊離した無益な試みとして映っており、小林自身は日本の伝統的な文化の枠組みの中に西洋的な要素を積極的に取り入れていった。
- ⑦ 帝劇やローヤル館でのオペラ活動は西洋への志向の強さが窺え、原語での上演こそないものの『夜の森（ヘンゼルとグレーテル）』や『魔笛』のように西洋の作品をもちこみ、日本語に訳して翻案・再構成した上でそっくり上演するパターンが中心であった。
- ⑧ 上演時間の短縮など新しい観劇制度を導入した日本初の近代劇場である帝国劇場がイタリアから明治四十五年に招聘したロシーは、赤坂にローヤル館という歌劇場を私費で創設し、公演活動を展開したが、経営は行き詰まり、大正七年に離日した。
- ⑨ 日本における歌劇文化の歴史には、宝塚を中心とする「和洋折衷」路線と帝劇⇨ローヤル座流の「西洋直輸入」路線との二項対立がみられるが、浅草などを根城に活動が展開された「浅草オペラ」は基本的な方向として後者の路線を引き継いでいたものと考えられる。

問13

本文の表題として最も適当なものを、次の①～⑨のうちから一つ選べ。解答番号は

38

- ① 歌舞伎と新劇に見る二項対立の姿
- ② 歌舞伎の再建を目指す小林の理想
- ③ 浅草オペラに見る日本の歌劇文化
- ④ 和洋折衷から西洋直輸入への展開
- ⑤ 帝国劇場とローヤル館の経営破綻
- ⑥ 日本音楽から西洋音楽への再構成
- ⑦ 西洋化をめぐる二つの路線の対立
- ⑧ 特権階級・知識階級の無益な試み
- ⑨ 失敗に終わったエリートを目論見